

2017  
6/15  
6月号

# 皆様と共に考え行動し… 市民に開かれた京都市政を！

京都市会議員 田中あきひで ニュースレター

発行者 田中あきひで  
発行責任者 稲生茂一

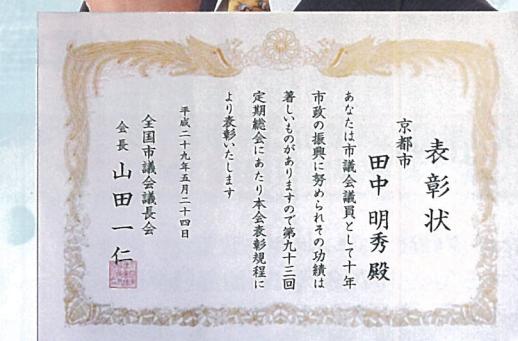
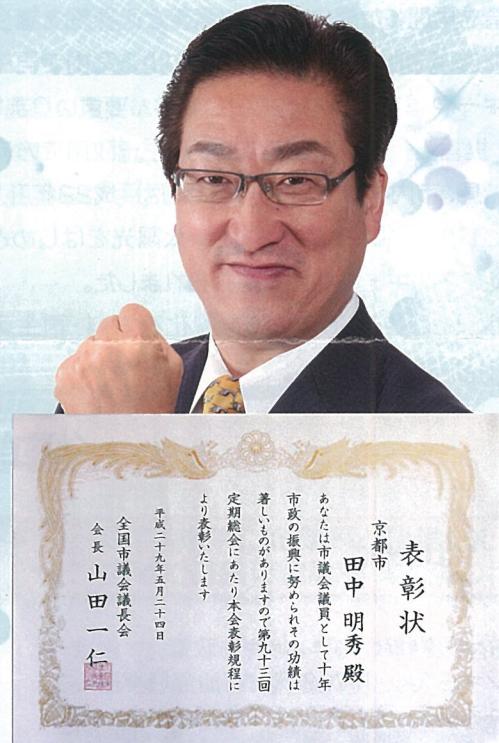
雨に映える紫陽花の花も美しくなってまいりました。  
皆様方にはご健勝にてお過ごしでしょうか。

『憲法改正は自由民主党の立党以来の党是です。自民党結党者の悲願であり歴代の総裁が受け継いでまいりました。私が総理・総裁であった10年前、施行60年の年に国民投票法が成立し、改正に向けての一歩を踏み出すことができました。しかし、憲法はたった一字も変わることなく、施行70年の節目を迎えるに至りました。次なる70年に向かって日本がどういう国を目指すのか。今を生きる私たちは少子高齢化・人口減少・経済再生・安全保障・環境の悪化など、わが国が直面する困難な課題に対し、真正面から立ち向かい、未来への責任を果たさなければなりません。』

5月3日公開憲法フォーラムの安倍総裁のあいさつの一部です。我が党は日本国憲法の三大原理を堅持することを明確にした上、その基本を大切に自主的な憲法改正に向け努力を重ねてまいりました。テロの驚異、北朝鮮の挑発が続く中で、私ども地方議員も安全・安心のためしっかり声をあげていかなければなりません。

京都市政に目を向けてみると、今年度より子どもや若者に関わるあらゆる施策を融合し、一層推進していくために、「子ども若者はぐくみ局」が設置されました。新局の創設が「京都で産んでよかった」「子育てしてよかった」と実感でき、子どもたちが「京都で生まれてよかった」「京都で育ってよかった」と感じられるよう、施策の一層の充実に取り組み、子どもたちが安心・安全で健やかな育ちを地域全体、社会全体で支えて応援するまちづくりを進めていかなければなりません。

また、好調な京都観光を背景に、市バス事業は一般会計に頼らない自立した経営を継続しています。地下



**情熱・対話・行動！**

鉄事業におきましても、経営健全化計画に掲げた5万人増客の目標を2年前倒しで達成する見込みです。

その一方で、国内外から訪れる観光客の宿泊需要増加により、旅館業の許可を得ずに営業する「違法民泊」が急増しています。騒音やごみの処理などを巡って地域とのトラブルを引き起こす事業者も後を絶たず、多くの苦情や不安の声が寄せられています。違法民泊に関する京都の実情や本市のこれまでの取組を踏まえた上で、実効性のある条例の検討を要望しているところです。

本年度は市会改革推進委員会の委員長を拝命いたしました。あわせて、議員在職10年ということで全国市議会議長会より表彰していただきました。お支えいただいた皆様方に改めて御礼申し上げますとともに、更なるご支援をお願いし、ごあいさつといたします。

## 活動報告

# 「省エネルギー・再生可能エネルギーによる持続可能な地域社会の実現」をテーマにデンマークの取組を調査してまいりました。

平成28年度京都市会海外行政調査は、平成24年度に行なった海外行政調査のいわば続編です。4年前に海外行政調査を再開した際には、その意義と必要性を議会で承認いただき、現地のジャーナリストによる案内で再生可能エネルギー・省エネルギーについて学んでまいりました。帰国後、提言を行ない、本市のエネルギー政策に方向性を示した結果、市内のエネルギー消費量は平成22年度からの4年間で11%削減することができ、太陽光をはじめとする再生可能エネルギーの利用も進められました。

今回は、「2050年までに脱化石燃料・再生可能エネル

ギー100%を達成する」という大胆な目標を掲げたデンマークを視察先に選定しました。主な視察先の選定に当たっては、デンマーク大使館にお世話になるとともに、それぞれの視察先との調整については、デンマークのエネルギー政策を国内外に発信し、官民パートナーシップ組織であるステイト・オブ・グリーンにコーディネートしていくという、これまた新しい試みを行ないました。また、京都市会の海外行政調査ではおそらく初となるメディアの同行取材(KBS京都)も行い、現地から日本のニュースに生中継を行なうなど、広く市民の皆様にこの調

査を知つていただく取組も行ないました。

日本とデンマークでは、気候も文化も違いますが、前回視察したドイツと同様に、オイルショックがエネルギー政策を考えるきっかけになったとのことです。デンマークでの調査は、同国が原子力発電を選択しなかった中で、「化石燃料からの脱却をどのように行なうとしているのか」が、私たちにとって最大の関心事であり、そこには、市民の共通理解とともに、それを実現するために教育やコミュニティが重要性を有し、京都でも最優先で取り組むべきだと思いました。

視察後、京都大学の手塚教授から、「情報はインターネットでも収集できる。学び、伝えるべきことは現地で得た感動だ」との貴重な御意見をいただきました。政策の背景には人がいて、その人の考え方をしっかりと調査することが現地視察の重要なポイントです。今回の視察がより幅広い、深い京都市会での議論につながるよう努力してまいります。



## 省エネルギー・再生可能エネルギーによる持続可能な地域社会の実現に向けた提言書

### はじめに

#### 1 多様な視点からの環境教育・学習のより一層の拡充

○デンマークにおけるエネルギー政策  
デンマークは、1970年代に石油危機を迎えるまでエネルギー資源の99%を外国に依存していました。オイルショックを経てエネルギー資源の自立化に向けて、原発の導入が議論されたが、多くの国民が安全性や時間がかかるなどを理由に反対したため、エネルギーの効率利用と再生可能エネルギーの活用に舵を切ることになった。



サムソ・エネルギー・アカデミー  
サムソ島は1997年に再生エネルギーだけで島を運営していくという目標を立て10年間で達成。サムソ島は世界的に有名になり、年間に6,000～7,000人が訪れるようになった。

#### ステイト・オブ・グリーン

デンマークの官民パートナーシップ(デンマーク政府、デンマーク産業連盟、デンマークエネルギー協会、デンマーク農業理事会、デンマーク風力発電産業協会)により2008年に設立された機関であり、「環境技術立国デンマーク」としてのブランドやノウハウを国際的に伝えることを目的としている。

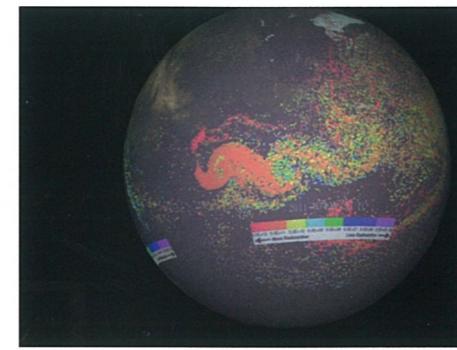
具体的には、①環境関連ツアーアーの企画、②世界中の環境関連イベントへの参加、③デンマークにおける環境政策の取組の世界への発信、④外国からの視察団の受入れ、⑤広報活動を行なっている。



#### 2 民間活力をいかした再生可能エネルギー推進のための制度の拡充

本市におけるエネルギー政策についても、環境教育・学習は最重要施策の一つである。  
子どもたちが環境学習施設を訪れ、実感すること、また、環境に特化した教育だけでなく、様々な教科においても環境を題材に取り上げることは、環境問題をより身近で、わかりやすく捉える機会となり、環境教育・学習の効果を高めるものである。

- (1) 環境関連施設をいかした環境教育・学習(社会科見学)をより一層拡充すること。
- (2) 複数の環境関連施設を有する伏見区を環境学習拠点とし、修学旅行生にも訪れてもらえるよう取り組むこと。
- (3) 数学や英語等の幅広い教科において、環境を題材とした授業を実施するなど、環境教育・学習の機会を広げ、内容の充実を図ること。
- (4) 京都市青少年科学センターへの地球環境を立体的・視覚的に学べるシステム(京都大学が開発した「デジック・アース」)の設置を検討すること。



ロラン島のヴィジュアル気候センターに設置されている「科学地球儀」(地球規模での気候変動や環境汚染を学ぶことができる)

#### 3 住民参加による地域活性化・地域再生の視点を持った制度の構築



コペンハーゲン沖の洋上風車  
出力2,000kWの風車20基が立ち並ぶウンドファーム。コペンハーゲン市の電力需要の約3%を賄っている。

本市において、市民に再生可能エネルギーを供給するシステムを構築するためには、その運営形態が重要であり、行政が計画段階でリーダーシップを取る一方、運営や資金運用においては、民間のノウハウを活用することができる制度の在り方をあらかじめ検討する必要がある。

- (1) 行政組織とは別の最適な運営形態を検討すること。
- (2) 資金面の支援制度を充実(資金借入時における自治体による保証など)させること。
- (3) 民間の参画を促すための規制緩和を行なうこと。(小風力発電の推進を含む。)

#### 4 国や京都府、企業等と連携した広域で持続可能な地域社会の構築

市内で発生するエネルギーの徹底した利活用と広い視野に立った連携が必要である。



オーフス市のアフルズ廃棄物エネルギーセンター  
廃棄物の焼却ではなく、焼却による熱を地域暖房に供給することを主な目的としている。(オーフス市の地域暖房利用世帯(95%)の16%の熱源をカバー)

- (1) 本市域の未利用資源を調査し、そのデータを市民、企業に開示することで、その活用を促すこと。
- (2) 各地域・エリアにおけるエネルギー効率を高めるための規制を検討すること。
- (3) 大規模開発を行なう際には、エネルギーに関するエリアマネジメントの考え方を導入すること。
- (4) 国や京都府の施設等と連携してエネルギーの相互利用を行なうこと。



地域暖房施設(わらボイラー)  
島内から出るバイオマス(わらや木質チップ等)を使用している。  
わらの塊1個が600kgあり、200リットルの石油の熱量に相当。



## 委員会報告

# 本年度は、市会改革推進委員会の 委員長を拝命いたしました!!

京都市会では、平成16年3月に市会運営委員会の下に市会改革検討小委員会を設置して以降、4次にわたる市会改革の取組において、議決権の強化をはじめとする議会機能の充実や開かれた市会の推進などの観点から、様々に議論を行ない、改革を実施してきました。

平成23年5月には、これまでの市会改革の流れを継承し、議会機能の充実・強化及び開かれた市会のより一層の推進を図るため、地方自治法に基づく「協議・調整の場」として「市会改革推進委員会」を設置し、第5次市会改革を開始しました。

### ▶ 第5次市会改革(平成23年5月～平成27年3月)の主な取組

- 議員定数及び議員報酬の見直し ..... 平成26年 1月
- 通年議会の導入 ..... 平成26年 4月
- 京都市会基本条例施行 ..... 平成26年 4月
- 委員会の直接傍聴の本格実施 ..... 平成26年 5月
- 議会報告会(試行実施) ..... 平成26年10月
- 龍谷大学の学生とのワークショップ ..... 平成27年 1月
- 京都市会大規模災害対応指針の策定 ..... 平成27年 3月

### ▶ 第6次市会改革(平成27年5月～)の主な取組

- 議長記者会見の実施 ..... 平成27年12月
- SNSによる情報発信 ..... 平成27年12月
- 高校生と議員による意見交換会(試行実施) ..... 平成28年12月



高校生と議員による意見交換会

29年度4月からは、京都市会基本条例の検証・評価をしてまいります。